



「感情」が適切に働くと、倫理道德の問題解決に役立つ



「感情」の働き方に注意しつつ、倫理道德の問題を考えましょう

モラロジー研究所の概論講座で使用されるテキストが、平成27年4月から改訂『テキスト モラロジー概論』となります。第一章には、倫理道德がいかに人類社会に重要な役割を果たしてきたかが説明されていますが、今月は「感情」をキーワードにこの問題を考えてみましょう。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

倫理道德の問題解決に向けて

——「感情」の働きに注意しよう

もちづきふみあき
教育研究室主任研究員 望月文明

私たちの日常生活は「倫理」や「道德」に溢れています。そして、私たちはそれらが、個人生活や社会生活に重要であることを認識しています。

誰もが「優しい・誠実・勤勉」な人を賞賛しますし、安心して社会生活を送るには、秩序やルールが必要なことを疑いません。それにもかかわらず、道徳的な問題が山積したままなのはなぜでしょうか？

それは、私たちの「感情」の働き方が原因といえるかもしれません。

近年、道徳性における感情の影響力が注目されています。私たちがある出来事の間違いやある人の優しさを判断する際、感情が大きな役割を果たしています。振り込め詐欺の報道には「怒り」の感情が、被災地ボランティアの報道には「温かい」感情が生じること、それぞれの善し悪しを判断します。怒りや温かさのほかに、感謝、敬愛、罪悪感などさまざまな感情が道徳問題の考え方には影響しますし、この感情の働きによって、私たちは道徳の問題を即座に判断し、行動できます。

この感情の果たす役割は重要ですが、働き方にはいくつかのパターンがあり、注意する必要があります。

一つは、感情の働きが必ずしも平等ではない点です。例えば、身内や友人に関する問題には、それ以外の人の場合よりも、同情しやすく、危害を及ぼすものへの怒りの感情が強く働きます。国籍、人種、信条などで、類似点が多い場合も同様の傾向がみられます。

もう一つは、遠い、目に見えない、新しい問題には感情が働きにくい点です。外国での災害や紛争、二酸化炭素の排出量、インターネットによるいじめなどは、古くから身近に起こる目に見える問題と比べると、危機感や被害者への同情が湧きにくいものです。

環境・医療・企業・情報などの分野で倫理問題が今なお探求され続けているのは、感情が適切に働かないことが関係していると言えます。

倫理道德はこれまで、人類社会に安心と秩序をもたらしてきましたが、感情を適切に働かせることでいっそう価値あるものになるでしょう。